

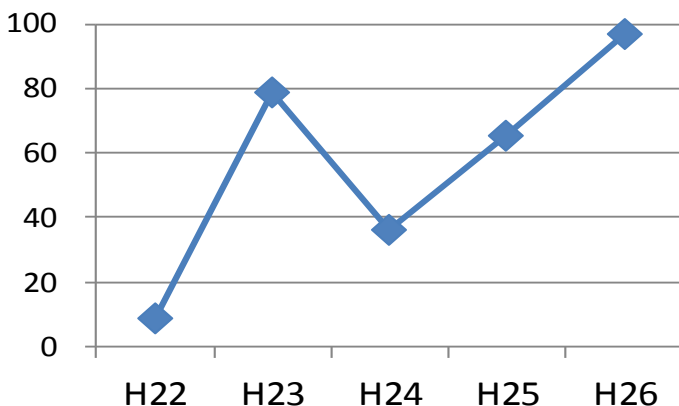
- 柏崎・刈羽地域は、米主体の地域であるが、平成22年産米の1等級比率が大幅に低下し、品質向上が課題
- このため、普及指導センターでは、気象変動に対応した栽培管理の徹底を目指し、地域における管理指導体制を再構築
- その結果、**コシヒカリの1等級比率は前年対比20.3ポイント向上し、96.8%と過去最高を達成**

具体的な成果

1 大幅に品質が向上

- 管理指導体制を強化し、活動を継続した結果、**1等級比率は大幅に向上**
- ・1等級比率
H22 8.5% → H26 96.8%

コシヒカリ1等級比率の推移(%)



2 管理指導体制の強化

- 営農指導員の現地指導力が向上し、農協主体の指導会、情報資料作成が定例化
- 情報提供体制を見直し、稲作情報を「平場版」と「中山間地版」に再編し発行
- 最重点技術対策を「適期中干し」に絞り込み**、大規模研修会、のぼり旗設置で実行を徹底
- 以上の取組により農業者が緊張感を持って栽培管理を実践



普及指導員の活動

平成22年度

- 大幅な品質低下を受け、課題を分析し新たな管理指導体制を構築

平成23～25年

- 新たな体制で活動したが、実績が今ひとつ上がらなかったため、再度、体制の見直しを検討・指導
- 営農指導員の指導力向上の研修会を開催(4回)
- 関係機関・団体が一体となり、**危機感を持って取り組む体制を構築・指導**

平成26年

- 最重点技術対策とした「適期中干し」の実践のため、研修会、はがき、のぼり旗設置など、できる限りの周知活動を実施

普及指導員だからできたこと

- ・高度な専門技術を有する普及指導員だからこそ、営農指導員を対象とした高度な研修が可能
- ・地域との信頼関係があり、高いコーディネート力を持つ普及指導員だからこそ、関係機関・団体との指導方針の統一と農業者への働きかけが可能



売れる米づくりに向けたコシヒカリの品質向上

活動期間：平成 22～26 年度（継続中）

1. 取組の背景

- 平成 22 年産米の大幅な品質低下を受け、気象変動に対応した栽培管理の徹底を目指し、柏崎地域農業振興協議会と連携した指導活動を展開してきたが、3 年連続して目標は未達成
- そこで、コシヒカリの品質目標達成に向け、H25 年 11 月に管理指導体制のあり方検討会を開催し、再構築された管理指導体制に基づき危機感を持って指導を実施

2. 活動内容（詳細）

(1) 管理指導体制のあり方検討

- ・平成 23 年～25 年までの品質実態を踏まえ、普及センターの働きかけにより平成 25 年 11 月に関係機関の課長クラスをメンバーとした「稲作推進検討チーム」を設置し、管理指導体制の再構築に向けた課題を整理
- ・整理された課題の具体的な対応策を、実務担当者会議（生産振興部会）で検討

(2) 目標達成に向けた具体的な対応策の検討

以下の 3 課題について、実務担当者会議で具体的な対応策を検討

ア 現地指導力の向上

- ・世代交代の進んだ JA 営農指導員の指導力向上を図るため、普及指導員を講師とした研修会を実施（H26. 1～2）
- ・生育調査、技術資料作成、現地指導会における普及指導員と JA 営農指導員の役割分担の見直しを実施

イ 情報提供体制の見直し

- ・全域を対象とした情報では的確な指導ができないため、より地域実態にあった情報提供方法を検討
- ・隣接地域において、重点技術対策の実践率向上に効果が高いとされている「緊急情報ハガキ」の導入を検討
- ・その他、地域ケーブルテレビの活用など、情報提供手段の追加活用を検討

ウ 最重点技術対策の設定

- ・当地域の品質低下要因が生育過剰による「除青未熟」であることを踏まえ、「スリムな稲作」の実現を目指し、最重点技術対策を『中干しの適期実施』として、関係機関で意志統一
- ・研修会の開催やのぼり旗による周知など、農業者の意識啓発と迅速な情報伝達など実践率向上のための手法を検討

(3) 農業者への周知・徹底と危機感を持った指導

- ・「柏刈米」品質向上農業者大会を開催し、品質向上に向けた重点技術対策や指導方針等について周知・徹底（H26. 2）
- ・H25 年度内に再構築された管理指導体制に基づき、H26 年産米の品質向上に向け関係機関が危機感を持って指導を実施

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 現地対応指導力の向上

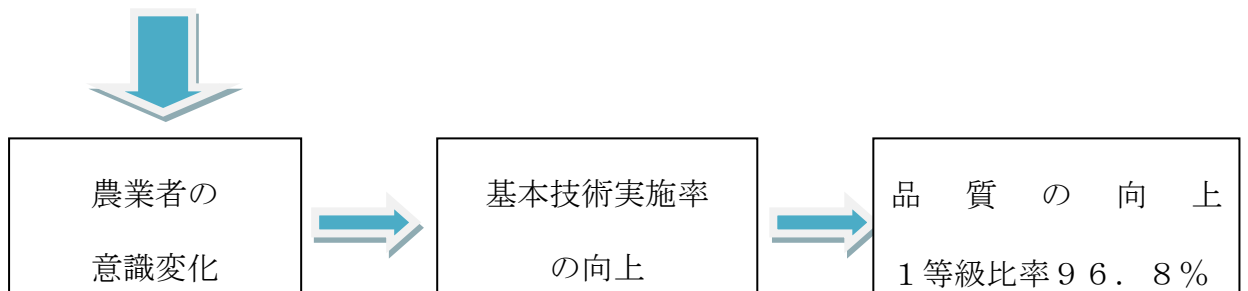
- ・ 営農指導員の指導力強化研修実施（4 回）
→JA 主体による指導資料の作成・配布（11 回）
→集落別指導会の実施
（2 集落あたり 1 会場の頻度、延べ 270 会場）
- ・ 生育調査地点の増加による調査精度の向上
（H25：18 地点 → H26：22 地点）

(2) 情報提供体制の見直し

- ・ 全戸情報「稲作だより」を平場版と中山間地版に分けて作成・配布
- ・ 柏崎市・刈羽村に依頼し、「緊急情報ハガキ」の予算を確保
- ・ ほ場看板、JA 支店前看板の増設と刈羽村ケーブルテレビ、地域新聞、のぼり旗の新規活用

(3) 最重点技術対策「適期中干し」の設定と実践

- ・ 適期実践に向けた、全域研修会の実施
- ・ ほ場および JA 支店にのぼり旗を設置
- ・ 実施状況の検証結果に基づき、「緊急情報ハガキ」を発送（販売農家 2,200 戸）



4. 農家等からの評価・コメント（柏崎農業協同組合営農経済部営農指導課）

水稻主体の地域であり、売れる米づくりによる農業者の所得確保には安定した高品質生産が不可欠である。今後とも関係機関・団体が一体となって取り組みを継続していきたい。

5. 普及指導員のコメント（新潟県柏崎地域振興局農業振興部普及課・課長代理・遠山哲史）

柏崎・刈羽地域の産地評価を高めるためには、高品質米生産の継続が必要であり、今後はコシヒカリだけでなく、他の品種についても高品質米生産を進めていきたい。

6. 現状・今後の展開等

- ・ 品質向上が一過性とならないよう、指導体制の継続とさらなる改善
- ・ 生育状況を分析・判断しての栽培管理ができるリーディング農業者の育成